

# 第73回沖縄県高等学校野球秋季大会

令和5年9月9日（土）～10月7日（土）

主催：一般財団法人

沖縄県高等学校野球連盟

共催：琉球放送株式会社

沖縄タイムス社

後援：沖縄県教育委員会

朝日新聞社

会場：タピックススタジアム名護

Agreスタジアム北谷

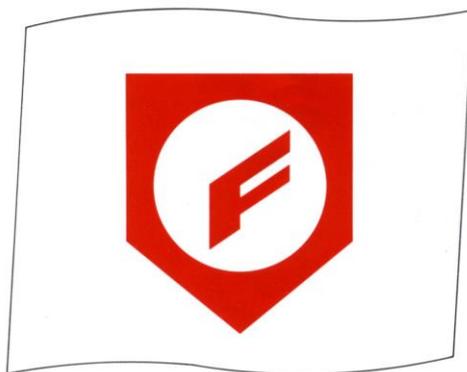
沖縄セルラースタジアム那覇

宜野湾市立野球場

コザしんきんスタジアム

# 大会要項

（2023年8月25日）



一般財団法人

沖縄県高等学校野球連盟

# 第73回沖縄県高等学校野球秋季大会 大会要項

主催：一般財団法人  
沖縄県高等学校野球連盟  
共催：琉球放送株式会社  
沖縄タイムス社  
後援：沖縄県教育委員会  
朝日新聞

1. 期 日 令和5年9月9日(土) ～ 10月7日(土) 雨天順延
2. 会 場 タピックスタジアム名護 名護市宮里2-1  
Agreスタジアム北谷 北谷町字美浜2番地  
沖縄セルラースタジアム那覇 那覇市奥武山町42-1  
宜野湾市立野球場 宜野湾市真志喜4-2-1  
コザしんきんスタジアム 沖縄市諸見里2-1-1
3. 大会申し込み 本大会に参加を希望する加盟校は、沖縄県高野連 HP (<http://www.kouyaren-okinawa.jp/>) に掲載されているエントリー用紙(FAX送信票)にて FAX で申し込みをして下さい。  
※発信者の氏名は、自署にてご記入下さい。  
FAX送信先：098-890-3158 (沖縄県高等学校野球連盟事務局 宛)
4. 申し込締切り 令和5年8月21日(月) 正午までに FAX にてエントリーする。
5. 抽 選 会 令和5年8月23日(水) 午後2時  
会場：かでな文化センター 〒904-0293 沖縄県中頭郡嘉手納町字嘉手納 588 番地  
TEL：098-956-1112  
①参加者  
各参加校(連合チーム含む)の主将 + 責任教師および監督(各校3名以内)および大会役員。  
上記に加え、開会式でプラカード係を務める生徒がいれば、その生徒1人も参加すること。  
②抽選に当たってはシード制を採用する。(1：エナジック、2：沖縄水産、3：美里工業、4：知念)
6. 選手資格証明書の提出  
本大会に参加を希望する加盟校は、沖縄県高野連 HP (<http://www.kouyaren-okinawa.jp/>) に掲載されている所定の選手資格証明書を15部(押印はコピーした後に行うこと。)作成し下記宛に、令和5年9月6日(水)正午までに提出して下さい。◎印なども忘れずに記入して下さい。なお、独自に作成した証明書を提出した場合は、再提出をお願いすることになりますのでご注意ください。  
選手資格証明書提出〆切：令和5年9月6日(水)正午  
※同期日までに、データ(Excelファイル)を、沖縄県高野連事務局の電子メールアドレスまで電子メールにて添付送信して下さい。  
提出先 〒901-2224 宜野湾市真志喜2-25-1 県立 宜野湾 高等学校内  
一般財団法人 沖縄県高等学校野球連盟 理事長 中村 健 宛
7. 登録変更  
について 選手資格証明書提出後の選手登録変更は認めない。  
ただし、新型コロナウイルス感染症にかかる選手変更については、別途定める。
8. 大会諸経費 ①入場整理券(大人600円、中高生200円)をもって充当する。  
②中高生の団体割引については、引率者を含む20名以上は100円とする。  
③剰余金が生じたときは、本連盟運営費に繰り入れ、不足の時は同運営費から充当する。

9. 大会組織及び運営 ①参加校は日本高等学校野球連盟に加盟している学校代表チームによって行う。  
②主催者で運営委員会を組織し、大会運営に万全を期す。  
③大会役員は運営委員会で適任者を選び委嘱する。審判委員は県高野連審判部が担当する。
10. 表彰及び派遣 ①優勝校へは賞状、優勝旗、優勝楯を授与する。  
②準優勝校へは賞状、代表旗、準優勝楯を授与する。  
③本大会の優勝校及び準優勝校は福岡県で開催される第153回九州地区高等学校野球大会【10月28日(土)～11月3日(金)】に出場させる。(抽選会10月20日(金)予定)
11. 補欠校順位戦 決勝戦の前に、準決勝で敗退した2校による「九州大会派遣補欠校順位戦」を行う。ただし、天候等の状況によっては、決勝戦を優先させて実施することもある。  
補欠校順位戦について  
①九州大会派遣校がコロナウイルス感染により、欠場となった場合の補欠順位を想定し実施する。  
②決勝戦の日の9:00開始予定。  
③コールドゲーム等、準決勝までと同じ方法(細則・特別規定)で行う。  
④当該2校の順位は、来年の春季大会の抽選会においては、くじを引く順番とし、ブロックやパートの固定は行わないこととする。
- ※九州大会で、コロナによる補欠校が認められない場合は、この補欠校順位戦は実施しない。  
その際は、準決勝において、優勝校に敗戦したチームを3位、準優勝校に敗戦したチームを4位扱いとする。  
この場合においても、上記11.の④を適用する。
12. 開 会 式 令和5年9月9日(土) 午前9時 沖縄セルラースタジアム那覇  
▼雨天時は、沖縄セルラーパーク那覇で行う。
13. 選 手 宣 誓 主将が、開会式にて選手宣誓を希望する場合は、大会申し込みエントリー用紙内にある「選手宣誓希望届」にその旨記載しエントリーと同時にFAXにて申し出て下さい。  
FAX送信先：098-890-3158 (沖縄県高等学校野球連盟事務局 宛)
14. 閉 会 式 決勝戦終了後、優勝、準優勝の両校で行なう。(タピックススタジアム名護)

※**連合チーム(レンタル含む)**での参加を予定している学校は、「**連合チームによる大会参加承認申請書**」を8月3日(木)17時までに(期限厳守)、**沖縄県高野連事務局宛**に提出して下さい。とりまとめて日本高野連へ申請します。

入場料等に関する詳細

- (1) 入場料は、大人600円、中高生200円、小学生以下は無料。  
※試合のある学校の学校職員は、「職員証」を提示していただければ、入場料は徴収いたしません。  
(「職員証」は、試合がある当該校の職員であることが証明できれば、その様式等は問いません)  
※一般生徒(試合がある当該校の生徒)が20人以上の場合、各学校で作成した「団体券」を提示すれば、入場料を一人100円とする。
- (2) 小中高の野球チームは、希望すれば団体で観戦できる。ただし、観戦場所は大会役員の指示に従うこととし、1団体に対して1人の大人(責任者)がチームの掌握にあたり、感染対策や熱中症、ケガや事故等の予防に責任をもつこと。責任者1人を含め入場料は徴収しない。  
※団体とは、原則として、児童・生徒20人以上とする。
- (3) 第一試合が終了したら、原則として払い戻しは行わない。  
※第一試合が「継続試合」になった場合は、払い戻し等の対応を行う。

## 第73回沖縄県高等学校野球秋季大会 細則

1. 試合規則は、2023年公認野球規則と大会特別規定により運営する。
2. 選手資格は、令和5年4月2日現在で満18才（平成17年=2005年4月2日以降の出生者）以下の者。
3. 大会期間中の不測の負傷または疾病に対して、主催者は応急の手当を施す他は責任を負わない。
4. 第1試合の出場チームは、試合開始90分前には所定の球場に到着し、大会本部よりオーダー用紙を受け取り記入後、直ちに提出すること。その後放送により責任教師・主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。（オーダー用紙交換は試合開始50分前に行なう。）
5. 第2試合目以降の出場チームは、球場到着後、大会本部でオーダー用紙を受け取り、4回終了までに大会本部に提出すること。オーダー用紙交換は5回終了後に行なう（放送を行なう）。責任教師と主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。選手はいつでも試合ができるよう準備しておくこと。
6. ベンチサイドは、抽選番号の若いチームを一塁側とする。  
ベンチには登録の責任教師1名、副責任教師1名、監督1名、選手20名、記録員1名の計24名以内とする。
7. 責任教師か副責任教師がノックした後は、平服に着替えベンチに入ること（高野連スタッフシャツも可）。
8. 試合前のシートノックは7分間。ノック時の補助選手は5名までとし、必ずヘルメットを着用すること。又、登録メンバー以外は、ノックを受けたり守備に入ってはいけない。
9. シートノック時のノッカーは、選手と同じユニフォームを着用し、黒か白のスパイクまたはシューズとする。補助選手も試合用ユニフォームを着用すること。
10. 記録員は男女にかかわらず、自校の制服を着用すること。複数の記録員のいる場合は毎試合代わってもよい。
11. 打者・走者ともに危険防止のため、必ずSGマーク（経産省認可）両耳付きヘルメットを着用する。
12. 捕手は防護用ヘルメット・マスク（SGマーク付）とスロートガード（のど部分の防護具）、カップを必ず使用すること。また、練習時を含め、捕手は座って投球を受けるときは必ず捕手用具一式を着用すること。
13. 試合中、攻守交代は全力疾走に徹すること。
14. 攻撃側の選手は、次打者・ランナーコーチ以外はベンチから出ないこと。次打者席には、必ず次打者が入り、投手が投球姿勢に入ったら素振りを止める。危険防止のため、グラウンド内にいる全ての選手（特に次打者、ブルペンの選手）は投手が投手板に位置したならばプレイに注目すること。
15. ベンチ内のメガホンは1個のみとする（監督のみ使用）。
16. グラウンドに入ってアップを開始するときは、試合用のユニフォームを着用すること。人員は25名以内とする。
17. 危険防止のため、球場内におけるフリーバッティング、ハーフバッティングは禁止する。また、球場内においてのウォーミングアップ及びランニングで外野の芝生を使用する際は、アップシューズを使用すること。
18. 試合中、ベンチ前でのキャッチボールは2組（4人）まで並列とし、ゴロの捕球練習は認めない。
19. 野球用具の使用については、日本高等学校野球連盟の用具使用制限に適合したものを使用すること。  
《応援団について》
  1. 応援は高校野球にふさわしいものであること。品位と節度をもったものでなければならない。
  2. 大会期間中の応援団の行動は、責任教師がその責任を負う。
  3. 手指消毒など、基本的な感染拡大防止に努めること。
  4. ブラスバンドおよび音源を利用したの応援を認める。ブラスバンド以外の太鼓については、洋太鼓・和太鼓いずれかを1個とする。
  5. 音源を利用する場合、音声出力機器（スピーカー等）の設置や音量等については大会本部の指示に従うこと。なお、電源は各チームで準備し、会場の電源は使用しないこと。
  6. 応援団は、試合中は場内の整理と感染拡大防止、試合終了後はスタンドの清掃に協力する。
  7. 個人名や校名を記入したノボリ等、テープ・紙ふぶき等は禁止。
  8. 応援団の校章旗・横断幕等は指定場所に掲げること。

# 大会特別規定

1. シートノックは試合前、大会本部の指示に従い行うこと。制限時間は7分間とする。但し、時間の都合で、短縮または行わないこともある。シートノックの補助員5名以内と補助ノッカー(登録外)1名を認める。
2. 本大会はタイブレーク制度を採用する。タイブレークは10回、無死1塁・2塁からとし、打順は9回終了時の打順を引き継ぐものとする。(決勝戦もタイブレークを適用する)
3. 1週間500球以内の投球とする。
4. 本大会では、得点差によるコールドゲームを次のとおり定める。
  - ①5回以降10点以上、7回以降7点以上の得点差が生じた場合。
  - ②決勝戦では、コールドゲームを適用しない。
5. 降雨中断後、30分毎に判断し、グラウンド整備を行ない90分をめどに試合続行が可能な場合は再開し、不可能と判断した場合は、審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。
6. 最終試合の開始時刻は日没2時間30分以前とするが、当日の天候その他を考慮して主催者が決定する。また、日没15分前からは新しいイニングに入らない。日没、その他の事情で試合の続行が不可能になった場合は、審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。 ※継続試合については決勝戦でも適用する。
7. 試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判委員が判断した時は、相手チームに事情を説明し臨時の代走者を許可することができる。この代走者は試合に出場している選手に限られ、チームに指名権はない。
  - ・臨時代走はその代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。ただし、塁上にいる臨時代走者が次打者となるケースにおいては、その臨時代走者に代えて打撃を完了した直後の者を新たな臨時代走者とする。
  - (1) 打者が死球などで負傷した場合  
投手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の者とする。
  - (2) 塁上の走者が負傷した場合  
投手を除いた選手のうち、その時の打者を除く打撃を完了した直後の者とする。(参考) 臨時代走者の記録上の取り扱いは、盗塁、得点、残塁などすべてもとの走者の記録として扱われる。
8. 審判委員の判定には、絶対に抗議することはできない。但し、ルール適用の過ちがおきた場合は申し出ることができる。疑義を申し出る場合は主将、伝令、または当該選手に限る。
9. 審判委員へのアペールは、必ず主将及びそのプレーの当事者が行なうこと。
10. 試合中トラブルが生じ、試合続行が不可能な場合は、トラブルを引き起こしたチームを敗者とし、没収試合とする。
11. 打者がバッターボックスに入る時や投手が審判委員からボールを受け取る際は、帽子を取って礼をする必要はない。
12. 試合中は、ベンチ入りできない者(登録選手以外の部員・OB・保護者等)をベンチや選手控え室に出入りさせたり、ベンチ周辺に近づけない。
13. 携帯電話はベンチに持ち込まない。
14. 走者やベースコーチ等が捕手のサインを見て、声やジェスチャーで打者にコースや球種を教える等の行為を禁止する。
15. サイズの大きい走者用手袋の使用とグラブの手首へのリストバンド装着は認めない。

# 第 73 回 沖 縄 県 高 等 学 校 野 球 秋 季 大 会 開 催 細 則

## 1. 開 会 式

- 1 令和5年9月9日(土)午前9時 沖縄セルラースタジアム那覇(雨天時は、沖縄セルラーパーク那覇で行う)
- 2 参加チームの登録された責任教師(正副)、監督及び選手は必ず参加すること。
- 3 各チームのユニフォーム(帽子、アンダーシャツ、ストッキング等を含む)は規定のとおり同一に揃える。  
(※入場行進はシューズで行う。シューズの色は統一が望ましいが、特に制限を設けない。)
- 4 選手の背番号は登録のとおりにする。
- 5 選手は8時50分までにユニフォーム着用のうえ、グラウンド内の所定の場所に整列すること。抽選番号の若い順に各チーム主将を先頭にして身長の高い順に一直線縦隊で整列する。その他、前年度優勝校の整列位置等は、選手係の指示に従うこと。
- 6 大会役員、審判委員、来賓及び各学校の校長、責任教師(正副)、監督は8時55分にバックネット前に整列する。
- 7 プラカード係は、学校の制服(またはユニフォーム)、チームの帽子に統一する。

開会式次第	進	行	瀬 底 智 樹	(高野連総務部長)
1	ファンファーレ			
2	選手入場 (行進曲)	選手係	川上琢也	(高野連技術部長)
3	開会宣言	大会副会長	遠越学	(高野連副会長)
4	国旗並びに大会旗掲揚			
5	優勝旗返還	前回優勝校	嘉数幸人	(沖縄尚学高校野球部主将)
6	大会長挨拶	大会長	屋良淳	(高野連会長)
7	共催団体挨拶	大会副会長	中村一彦	(琉球放送株式会社代表取締役社長)
8	祝辞	教育長	半嶺満	(県教育委員会教育長)
9	選手宣誓		吉田夕槻	(コザ高等学校主将)
10	閉式通告			
11	選手退場 始球式(10時30分頃予定)			

## 2. 閉 会 式

- 1 決勝戦終了後、優勝チーム、準優勝チーム、大会役員、審判委員、来賓で行う。
- 2 決勝戦が終わり次第、両チームの選手は投手板を中心にバックネットに向かって一直線横隊に整列する。
- 3 大会役員、審判委員、来賓及び両校の校長、責任教師(正副)、監督はバックネット前に整列する。

閉会式次第	進	行	瀬 底 智 樹	(高野連総務部長)
1	開	会		
2	成 績	発 表		
3	表	彰	大会長 屋良淳	(高野連会長)
4	大会長挨拶	大会長	屋良淳	(高野連会長)
5	激励のことば	大会副会長	武富和彦	(沖縄タイムス代表取締役社長)
6	国旗並びに大会旗降納			
7	閉会宣言	大会副会長	外間昌繁	(高野連副会長)

## 第73回沖縄県高等学校野球秋季大会 競技役員

顧問	知念 繁夫 新屋 太郎 宜野座 嗣郎 國吉 眞介 宮里 景眞 狩俣 幸夫 赤嶺 研雄 我如古 清 玉城 崇 志良堂 芳男 前新 健 神谷 孝 森田 邦弘 前新 出 上原 昇 平良 章次 岩崎 勝久 川畑 三矢 半嶺 満 (県教育委員会教育長) 渡辺 丘 (朝日新聞社那覇総局長) 比嘉 洋 (毎日新聞社那覇支局長)
参加校校長	金城 正樹 (県教育庁保健体育課長)
大会 長	屋 良 淳 (県高野連会長)
大会 副 会 長	外 間 昌 繁 (県高野連副会長) 眞榮田 義 光 (県高野連副会長) 遠 越 学 (県高野連副会長) 中 村 一 彦 琉球放送株式会社代表取締役社長 武 富 和 彦 沖縄タイムス社代表取締役社長
運 営 委 員 長	中 村 健 (県高野連理事長)
運 営 委 員 長 補	前 川 等 (県高野連副理事長)
運 営 副 委 員 長	宮 里 淳 (県高野連常任理事) 渡久地 政 国 (県高野連常任理事) 嘉 数 節 (県高野連常任理事) 島 袋 春 樹 (県高野連常任理事) 名渡山 直 子 (県高野連常任理事)
運 営 委 員	
総 務 部 部 長	瀬底 智樹
総 務 部 副 部 長	國吉 大志、 岸本 拓馬、 末吉 昇一
技 術 部 部 長	川上 琢也
技 術 部 副 部 長	川平 優次、 福仲 直人、 安富 勇人
審 判 部 部 長	多嘉山 太
審 判 部 副 部 長	西銘 健一、 島袋 俊哉、 上原 拓、
記 録 情 報 部 部 長	神里 大 一
記 録 情 報 部 副 部 長	佐久原 大志、 仲里 裕太、 豊原 啓人

競技役員

	渡慶次央子	中村敦		我謝隆		
	中本昌弥	安富大志		森本裕也	真玉橋長郎	照屋実理
	東佳奈子	高良耕平		濱元良人	町田宗毅	上原康
	比嘉智二	當銘樹	伊良波泰	岸本亘史		
	屋良健	新垣祐樹	比嘉健二	上原正昭		
	津山嘉都真	仲宗根尚二		宮城隼人	喜納正太	上原健吾
	宮里義浩	宮城岳幸	當銘葵	神山和輝	田里友哉	
	森澤征一郎	辺土名勇樹	比嘉吉一	大城英健	比嘉公也	伊志嶺大吾
	安里大作	玉城輝明	新田真樹子	宮里太基		
	知念正仁	津留直樹	大濱方志	安座間竜作	喜瀬民男	崎浜秀哉
	前濱範一	東亮	山城明男	吉元嘉邦	大川基樹	福本儀光
	新里和久	兼島兼哲		伊佐優歩	親川聖	
	仲宗根寛史			金武孝代	仲松一星	
	前川錦	慶田城剛	西里拓朗	洲鎌弘樹	大城康成	根路銘悠
	大城春菜			仲里武史	石塚年勝	大城貴史
	大浦陸	兼城翔太		米須清祐	知念邦睦	天願智靖
	喜舎場正太	伊禮直浩		天願恒	赤堂秀馬	照屋圭二郎
	浦添広志	宜志富薫	與那城吾朗	外間千砂登	具志堅興律	崎原秀弥
	宮里健二	知名淳	宮城朗	翁長淳	上原健史	
	金城幸伸	仲村淳	古城大地	新垣健一	山里貞俊	
	田原伸繁	玉元大輔	具志飛馬	神里正太	上原忠	大城一基
	奥田誠吾	城間克也	奥野敏彦	川満翔太	呉屋大輔	
	玉城幸哉	又吉啓介		眞玉橋元博	新垣隆夫	藤木淳平
	藏本哲雄			山城和也	大城浩二	大嶺都
	與儀正	天願正宗	嘉陽宗大	糸数辰信		
	川満亨	新里拓	瀬名波幹智	宮里友也	平良隆訓	
	比嘉秀策	嶺井政彦		大城盛隆	金城裕介	
	伊禮隼	大蔵宗元	仲間広美	平良栄二	屋嘉比政司	仲座睦子
	町原尚忠	宮城耕治		島袋善之	新川将太	小波津尚志
	新垣隆	比嘉繁遵		伊集幹郎	知念新大	
	仲里健	金城聡	仲里真澄	照屋拓己	松元輝	
	大嶺真	城間直美	阿波連仁	上原八重子	伊波大吾	内間忍
	新垣早希子	野原潤一		渡久山玄介	砂川玄隆	大浜英康
	安里利光	我喜屋優	砂川太	又吉晋也	辻建	友利佳史
	池間忠彦	島袋洋奨		登野城吉紘		
	藤井智	山崎仁也	津留侑介	大城康弘	金城洋樹	
	喜屋武準斗	砂川歩	徳山篤史	前城大悟	神山剛史	瀬名波敦
	伊良部悠			上向穰司	五十嵐康朗	今井康輔
	山鹿勝廣	新田伸		神田大輝	神谷嘉宗	大湾達矢
	富川盛章	安里大作	岸本敬	外間一先	仲本賢一郎	仲松志朗
	金城朋奈	中山慎	多和田真	伊計千夏	森みさき	福原修

## 第73回沖縄県高等学校野球秋季大会 審判委員

審判委員長	多嘉山 太	(県高野連審判部部長)		
審判副委員長	西銘 健一	(県高野連審判部副部長)		
	島袋 俊哉	(県高野連審判部副部長)		
	上原 拓	(県高野連審判部副部長)		
審判幹事	国仲 吉川	町田 幸男	比嘉 安孝	玉代勢 秀人
	座喜味 治	国仲 直彦	玉城 健	澤岬 安邦

審判委員 沖縄県高等学校野球連盟 審判部

多嘉山 太	西銘 健一	島袋 俊哉	上原 拓
国仲 吉川	町田 幸男	比嘉 安孝	玉代勢 秀人
座喜味 治	国仲 直彦	玉城 健	喜納 清一
西村 洋	真壁 朝善	我喜屋 宗彦	澤岬 安邦
喜友名 功	島袋 英治	上原 浩	嘉数 正重
兼次 博	大城 幸光	仲本 盛和	金城 明樹
玉城 誠	大浜 拓郎	村田 直樹	平田 英樹
平良 朋広	下里 大弥	山田 健登	嘉陽 宗雄
具志堅 興律	嶺井 政彦	天願 恒健	平良 博志
野原 潤一	津留 直樹	中村 健	外間 一先
田原 伸繁	嘉数 節等	親川 聖	平良 隆嘉
眞玉橋 元博	前川 淳	伊良波 春樹	吉元 淳博
新田 基樹	知名 圭二郎	島袋 誠吾	宮里 理宗
大川 明男	照屋 圭民	奥田 拓己	上町 宗毅
山城 年勝	喜瀬 広志	照屋 長郎	川満 成史
石塚 善之	浦添 宗元	眞玉橋 正作	大徳 篤哉
島東 亮隆	金城 幸哉	安座間 栄二	徳田 友琢
大城 盛和	玉城 良人	平富 大志	川上 真澄
山城 康弘	大城 浩二	津山 嘉都真	仲里 岳幸
大國 大志	渡久地 貞俊	上原 健吾	宮城 大啓
宮里 健二	山里 大志	安里 大策	神原 一人
高良 耕平	佐久原 大弘	伊藝 修賢	豊宮 友也
安富 勇介	洲鎌 銘樹	仲本 本拓	宮那 城吾
大金 裕介	川平 優次	岸大 嶺真	大城 一基
赤堂 秀馬	松元 輝	西野 僚真	瀨名 波敦
大田 守嗣	安次富 進也	山川 真之介	